

豊かな緑のなかでウェルネスな暮らしを提案する”ヒルズの未来形”
麻布台ヒルズに拡張生態系緑地「Green Pool」が誕生
～先進的な都市緑化の実装により、自然生態系を超える豊かな生物多様性を実現～

森ビル株式会社(東京都港区、代表取締役社長 辻慎吾)は、麻布台ヒルズの緑地空間において、拡張生態系緑地「Green Pool」の運用を開始しました。先進的な都市緑化の実装により、自然生態系を超える豊かな生物多様性を実現するとともに、植付や収穫等の体験型プログラムを通じて、麻布台ヒルズのコンセプトである「Green & Wellness」を具現化する取り組みを加速します。

拡張生態系緑地とは

「拡張生態系^{※1}」とは、科学的知見に立脚し、目的に応じて生態系をデザインすることで、自然本来の生態系機能が自然状態以上に高められた状態を指します。この原理を適用した拡張生態系緑地は、AI やビッグデータに基づき、植物同士の相互作用をシミュレーションして最適な植物種や配置を決定。多種多様な植物の混生・密生により相互作用を促し、個々の植物の潜在能力を引き出すことで、無耕起・無施肥・無農薬の栽培を実現するとともに、自然生態系を超える豊かな生物多様性を実現します。

生態系機能が高度化した緑地は、空気清浄、ヒートアイランド現象の緩和、優れた保水力による水害対策などに貢献するとともに、ネイチャーポジティブに貢献する新しい都市緑化の形として注目されています。

先進的な都市緑化の実装と体験型プログラムにより「Green&Wellness」を具現化

森ビルは、2019年 から 2025年 にかけて、六本木ヒルズのけやき坂コンプレックスの屋上庭園にて、株式会社ソニーコンピュータサイエンス研究所とともに「Synecoculture(協生農法)^{※2}」の実証実験を実施。実験の中で育成した植物の一部を移植することで、このたび麻布台ヒルズに「Green Pool」を誕生させました。

約 60 m²の敷地には、生物種ビッグデータと周辺の観測データ分析を元に選定した野菜や果樹、ハーブ、在来野草など、約 80 種の植物を配置。微生物が活性化した土壌と多様な動植物が息づく環境を構築することで、周辺緑地とのエコロジカルネットワークをさらに強化するとともに、都心部における生物多様性の向上を加速させます。

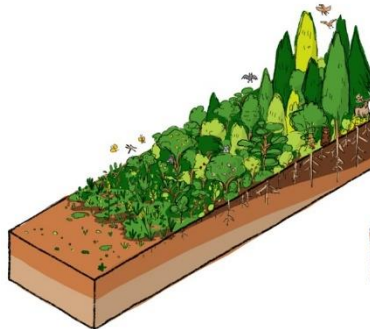
また、子供から大人まで参加可能なガイドツアーや、植付・収穫ワークショップ等の体験プログラムを提供することで、麻布台ヒルズのコンセプトである「Green & Wellness」を具現化する取り組みをさらに加速します。

なお、本緑地の運用にあたっては、株式会社 SynecO の協力のもと、拡張生態系の理論に基づいた実装および維持管理を行います。



麻布台ヒルズ「Green Pool」

自然生態系



拡張生態系



©ソニー-CSL

拡張生態系(イメージ)

※1 株式会社ソニーコンピュータサイエンス研究所の船橋真俊研究員(株式会社 SynecO 代表取締役社長)が科学的に定式化

※2 多種多様な植物を混生・密生させることで生態系の自己組織化能力を最大限に引き出し、無耕起・無施肥・無農薬で植物を栽培する農法。

当社は、引き続き、「都市を創り、都市を育む」の理念のもと、“都市と自然の共生”を追求し、未来へとつながる持続可能な社会の実現に貢献してまいります。

【本件に関するお問合せ先】
森ビル株式会社 広報室 伊藤、立島
TEL: 03-6406-6606 FAX: 03-6406-9306 E-mail: koho@mori.co.jp

【参考①】圧倒的な緑と世界基準のウェルネスが融合する麻布台ヒルズ

麻布台ヒルズの開発コンセプトは「緑に包まれ、人と人をつなぐ『広場』のような街—Modern Urban Village—」です。「Green」と「Wellness」を柱に、圧倒的な緑に囲まれ、自然と調和した環境の中で多様な人々が集い、より人間らしく生きられる新たなコミュニティの形成を目指しています。

街の中心には約 6,000 m²の中央広場を配し、低層部屋上を含む敷地全体を緑化することで、計約 24,000 m²もの広大な緑地を確保しました。四季折々の表情を見せる約 320 種の植栽が広がり、緑と水が連なる自然豊かな憩いの場を創出しています。

また、麻布台ヒルズは「暮らし働くことで人々が健康になれる街」を目指しています。医療施設を核として、スパやフィットネスクラブ、レストランやフードマーケット等の多様な施設を連携させ、街に住み、働き、訪れることすべてがウェルネスに繋がる仕組みを構築します。その実証として、麻布台ヒルズ森 JP タワーは、人々の健康やウェルネスに焦点を当てた世界初の建物基準「WELL 認証」において、オフィス・商業区画の共用部を対象とした「WELL Core」の最高ランク「プラチナ」本認証を日本で初めて取得しました。



約 6,000 m²の緑豊かな中央広場



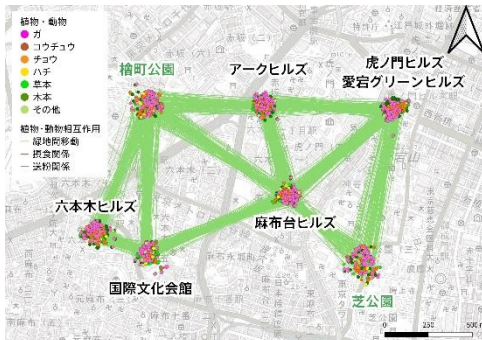
定期開催のウェルネスプログラム

【参考②】都市緑化と生物多様性保全に向けた森ビルの取り組み

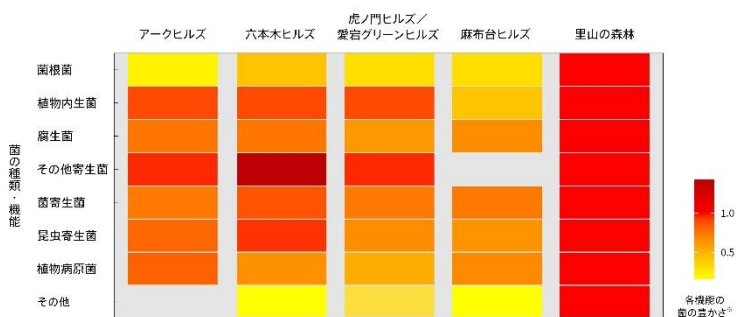
森ビルは 1986 年のアークヒルズ以降、一貫して「都市と自然の共生」を追求し、現在では都心部に 12ha を超える緑地を創出しています。2008 年 (COP9) には、国内先進企業として「リーダーシップ宣言」に署名するなど、早くから国際的な生物多様性保全の枠組みに参画してきました。

2012 年竣工のアークヒルズ 仙石山森タワーでは、当社初となる生態系に配慮した緑化に挑戦し、人と自然が共存する新たな都心の緑を実現。その後の虎ノ門ヒルズ森タワー (2014 年竣工) や麻布台ヒルズ (2023 年竣工) でも生態系配慮の取り組みを深化させ、都市における価値ある緑地の創出に貢献しています。

2025 年には、自然関連財務情報開示タスクフォース (TNFD) の提言に基づき、これまでの都市づくりを通じた生物多様性に関する情報を開示。戦略エリアである港区における再開発事業および地域エネルギー供給事業を対象に、自然への依存と影響、およびポジティブインパクトを分析しました。その結果、各ヒルズ内の緑地と周辺緑地との相互作用により、約 180 種の昆虫が往来可能な都心部のエコロジカルネットワークが形成されていることが示唆されました。あわせて、ヒルズの土壌は開発時の設計思想や竣工後の管理・運営、時間の経過による土壌の熟成等により、土壌微生物の多様性が豊かであること、特に竣工時期の古い物件ほどより多様な機能をもつ微生物が分布しており、里山林の土壌の状態に近いことが明らかとなりました。



約 180 種の昆虫が往来できる
ヒルズのエコロジカルネットワーク



竣工時期の古い物件ほど、炭素蓄積の豊富な里山に近い土壌を醸成